

国立大学法人 奈良女子大学 旧奈良女子高等師範学校本館 《重要文化財》

記念館一般公開

平成24年10月28日(日) ～ 11月8日(木)

午前9時～午後4時半 (入館は4時まで) 《入場無料》

お問い合わせ先
奈良女子大学総務・企画課
〒630-8506 奈良市北魚屋東町
TEL.0742-20-3220
FAX.0742-20-3205

記念館HP
<http://koto.nara-wu.ac.jp/kinenkan/>



近鉄奈良駅より北へ徒歩5分
JR奈良駅より市内循環バス
近鉄奈良駅前下車
*お車での来学はご遠慮ください



奈良女高師と留学生 (1930年代)



留学生と奈良公園 (1940年代)

アジア・ジェンダト文化学研究所センター主催特別展示

奈良女子高等師範学校とアジアの留学生

後援 一般社団法人佐保会、教育システム研究開発センター



アジア・ジェンダー文化学研究センター主催特別展示

奈良女子高等師範学校とアジアの留学生

後援 一般社団法人佐保会・教育システム研究開発センター

奈良女子大学の前身である奈良女子高等師範学校は、明治四十一年（一九〇八）に設置されました。その三年後の明治四十四年（一九一一）四月、奈良女高師は最初の外国人留学生として清国からの聴講生一名を受け入れています。大正一四年（一九二五）には「特設予科」が設置され留学生受け入れ態勢が整ったことから、多くの留学生があつまるところとなり、本科への進学者も増えました。予科・本科あわせて奈良女高師で学んだ留学生総数は一六〇名を超えています。そのほとんどは中国や台湾、朝鮮、旧満洲（中国東北部）といったアジアからの留学生で、卒業後、母国の教壇に立ったり、文筆で名を成したり、あるいは学者や政治家として、アジアの戦後社会の発展を支えてきました。

アジア・ジェンダー文化学研究センターでは平成二十一年度より重点プロジェクト「帰国留学生のキャリア形成とライフコースに関する調査」に着手し、本学に残る奈良女高師の留学生関連資料を調査してきました。また元留学生やその遺族にもインタビューを行い、留学生の帰国後のライフコースの具体例を明らかにしました。特別展示では、センターの調査結果や元留学生から提供された写真などをパネル展示することで、アジアの女子教育の歴史のなかで本学が果たした役割を振り返ります。

また、同窓会である佐保会の協力を得て、戦前、アジアに教師として赴任した卒業生から寄贈された現地の人形も同時展示します。



台湾の国会議員に立候補一選挙チラシ（許春菊女史）



家庭を築いて一中国天津にて（高素威女史）



さらに学びを求めて一南京の金陵大学にて（王興英女史）

小企画

奈良女子大学所蔵の正倉院模造宝物

期間中、本学所蔵の正倉院模造宝物を展示いたします

展示品の一例

「紅牙撥鏝尺」象牙を紅く染め文様を彫ったもの
本学所蔵品は、正倉院中倉五十一第三号を模して製作された

